

抜粋

資料番号3

和泉市

生涯学習・スポーツ推進計画

市民誰もが、

くわわる つながる ひろがる

生涯学習・スポーツの実現

令和5年3月

和泉市

1. 計画策定の趣旨

「人生 100 年時代」と言われる今日、人々が生涯を通じて様々な場や機会において行う生涯学習やスポーツ活動は、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を送る上で不可欠なものとなっています。また、生涯学習・スポーツを通じて培われる市民の相互交流や、それを基礎とした地域における活動の活性化は、これからの社会においてますます重要性を増しています。

本市においては、平成 10 年に「和泉市生涯学習推進基本構想」を策定、その後、平成 14 年に「和泉市生涯学習推進プラン」、平成 25 年に「第 2 次生涯学習推進プラン」を策定し、市民の生涯学習の振興に取り組んできました。またスポーツの分野においては、平成 15 年に「和泉市生涯スポーツ振興基本計画」、平成 25 年に「和泉市スポーツ推進基本計画」を策定し、市民誰もがスポーツを楽しむことのできるまちづくりを推進してきました。

生涯学習とスポーツは、市民誰もが生涯にわたる営みとして活動に参加し、自身や社会の変化に対応しながら、豊かな人生と社会の形成に向けて取り組めるものとしていくことが共通の課題となっています。このたび、「第 2 次和泉市生涯学習推進プラン」及び「和泉市スポーツ推進基本計画」がいずれも計画期間の最終年度を迎えるにあたり、新計画の策定において両計画を統合し、一体的な計画として策定することで、生涯学習とスポーツを、共通の理念と方針に基づき相互に連携しながら推進していきます。

また、平成 31 年度から概ね 5 年間で計画期間として策定されている「第 3 次和泉市子どもの読書活動推進計画」についても、今後は新計画に統合していくとともに、これまでの計画には位置づけられてこなかった美術館・文化財・青少年関連施策を含め、生涯学習・スポーツ関連施策の総合的な指針となる計画として、「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画」（以下「本計画」という）を策定します。

2. 計画の対象

(1) 生涯学習

「生涯学習」とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味等さまざまな場や機会において行う学習の意味で用いられます。本市においても、「生涯学習」という言葉を用いた施設・事業だけではなく、図書館、美術館、文化財、青少年関連施策等、幅広い領域において、市民を対象とした教育・啓発や学習の支援に取り組んでおり、本計画はこうした生涯学習に関する取組全体を網羅する、総合的な指針となります。

ただし、生涯学習の一領域として位置づけられる学校教育については、既に「和泉市教育振興基本計画」のもと施策の推進が行われており、就学前の子どもを対象とした教育・保育についても、「こども・子育て応援プラン」に基づく施策が行われています。そのため、これらの分野については、役割分担と計画の進捗管理の一元化の観点から、それぞれの個別計画に基づくことを基本とし、本計画の対象とはしていません。

(2) スポーツ

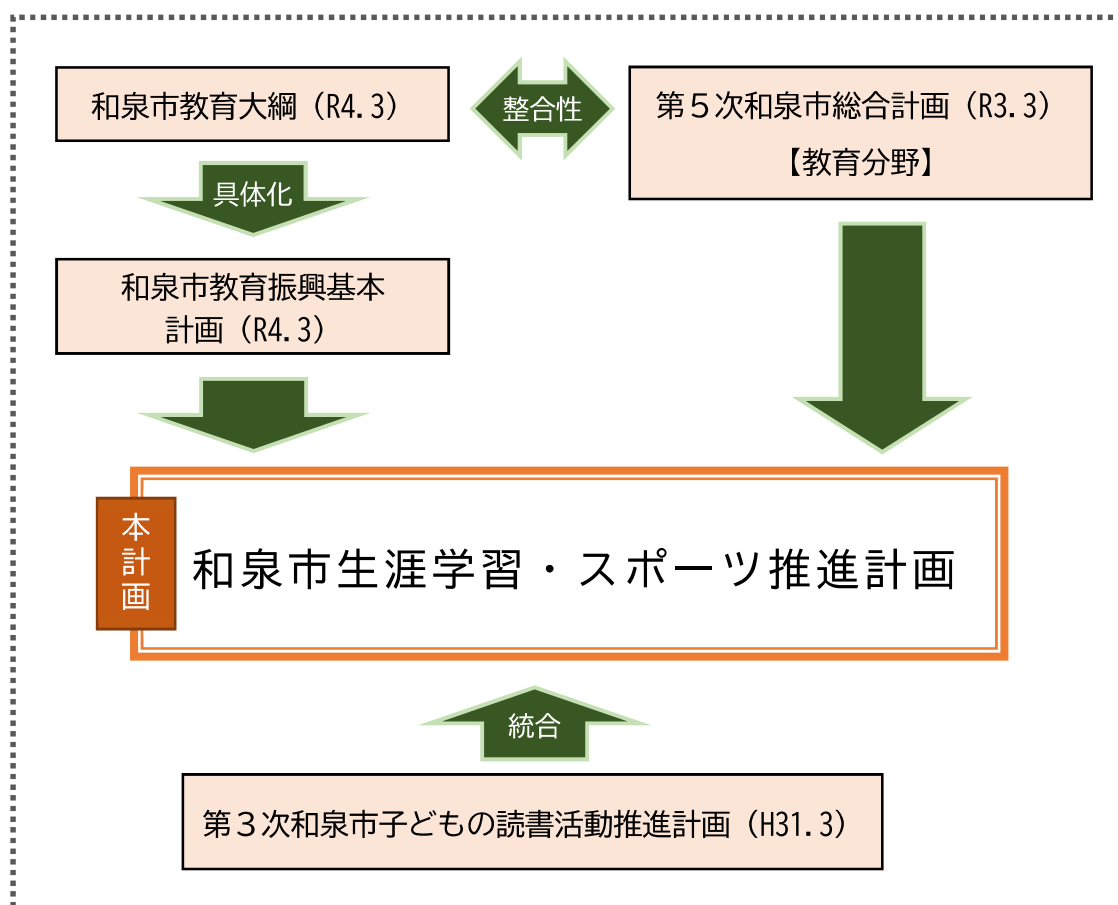
本計画が対象とする「スポーツ」とは、競技スポーツとして実施されるものだけではなく、比較的簡単なルールで手軽に楽しむことを目的に考案されたニュースポーツ、健康づくりを目的としたウォーキングや軽い運動・体操、子どもの遊び等、体を動かすすべての運動を含め、市民の生涯にわたる活動の一環として幅広い内容を含むものとします。また、自分でスポーツを行うだけではなく、プロスポーツの観戦等を通じて楽しむことや、スポーツの大会をボランティアとして支える活動等も含め、スポーツに関わる活動に幅広く参加することの全体を視野に入れています。

スポーツは、人々の生涯にわたる営みとしてとらえる場合には、生涯学習の一領域として位置づけられることもあります。一方、国においては平成27年に「スポーツ庁」が新設される等、一つの独立した政策分野として位置づけられており、本市においてもこれまで個別の推進計画に基づいた施策が展開されてきました。そのため、本計画においてもスポーツ関連施策は、生涯学習施策の一部ではなく、一つの独立した領域として記載しますが、施策の推進においては相互の関連性を重視し、連携して取り組むものとします。

3. 計画の位置づけと期間

(1) 関連計画との関係

本計画は、第5次和泉市総合計画、和泉市教育大綱、和泉市教育振興基本計画を上位計画とし、各計画が示した基本理念と基本方針に基づいて策定します。また、第3次和泉市子どもの読書活動推進計画については、現行計画が終了する令和6年3月をもって本計画への統合を予定しています。



※各計画の後ろの括弧内は策定年月

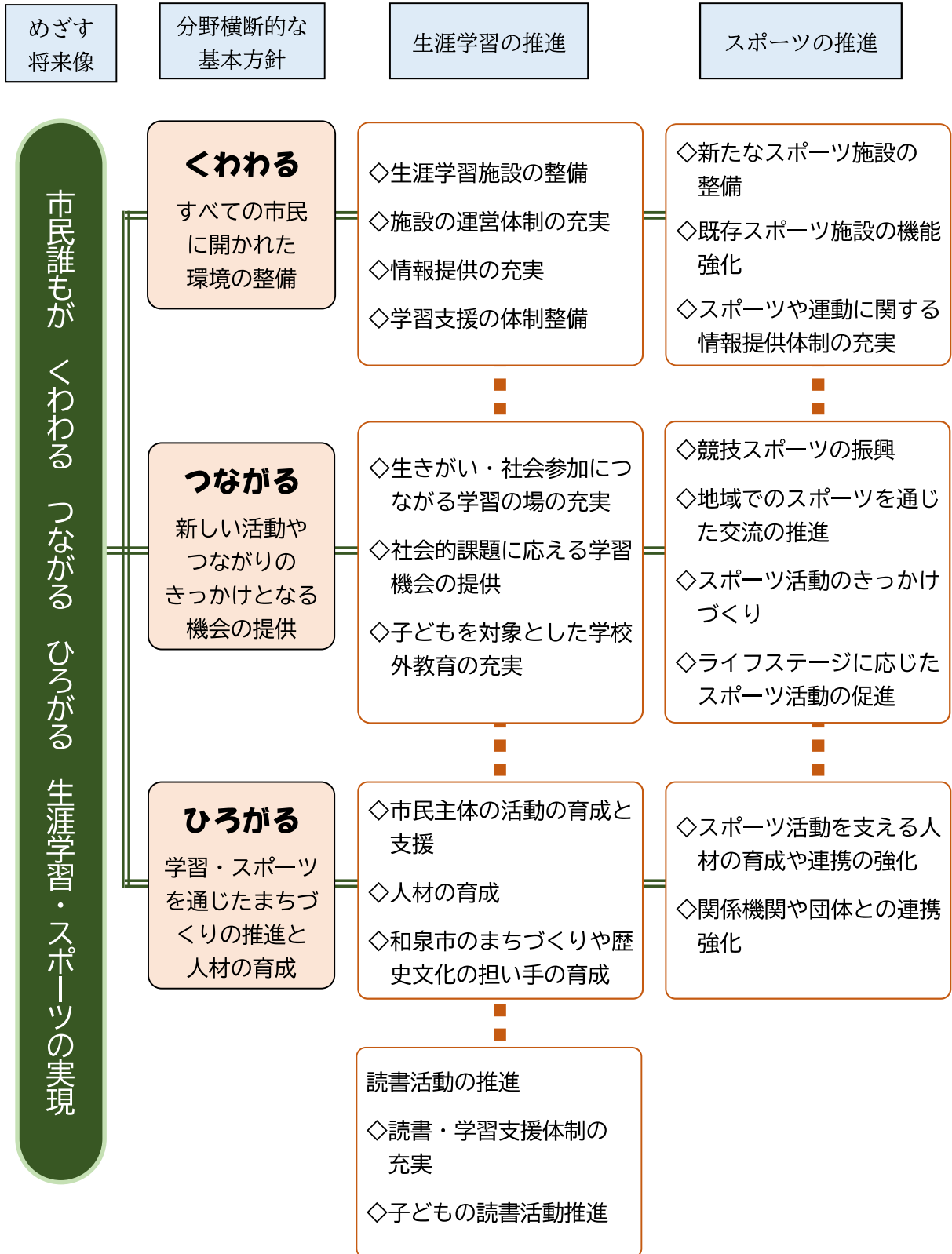
(2) 計画の期間

本計画の計画期間は、令和5（2023）年度から令和14（2032）年度までの10年間とします。

なお、計画の期間中に、社会情勢や国の政策動向等に新たな変化が生じた場合にはそれらに対応するため、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

3 本計画の施策体系

めざす将来像の実現に向け、分野横断的な基本方針に基づいて、生涯学習・スポーツの分野別施策の推進に取り組みます。



本章では、基本理念の実現に向け、3つの基本方針に基づいて実施する生涯学習分野の施策について、現状と課題を示した上で、施策の方向や主な事業について記載します。

■第4章の体系

1. すべての市民に開かれた学習環境の整備【くわわる】	
(1) 生涯学習施設の整備	①生涯学習の拠点となる施設の維持管理 ②施設利用の利便性の向上
(2) 施設の運営体制の充実	①施設運営における専門性の確保と職員の資質向上 ②施設間連携の強化
(3) 情報提供の充実	①生涯学習情報の集約と発信 ②多様な媒体を活用した情報提供の充実
(4) 学習支援の体制整備	①誰もが参加しやすい学習環境の整備 ②基礎的な学習の場の確保 ③市民の学習を促進する取組の充実
2. 多様なニーズに応じた学習機会の提供【つながる】	
(1) 生きがい・社会参加につながる学習の場の充実	①幅広いニーズに応じた学習機会の提供 ②市民の自主的・継続的な学習につながる支援 ③サポートを必要とする市民を対象とした学習機会の提供 ④文化・芸術事業の推進 ⑤本市の歴史や文化財等に関する学習機会の充実 ⑥友好姉妹都市との交流
(2) 社会的課題に応える学習機会の提供	①市民の生活上の必要に即した学習機会の提供 ②人権問題・社会問題に関する学習機会の提供や啓発・情報発信 ③古文書をはじめとする地域資料や歴史公文書の適正な保存・研究・公開の推進 ④障がいのある人の生涯にわたる多様な学びの支援
(3) 子どものための学校外教育の充実	①子どもの学習・体験機会の充実 ②青少年事業の充実 ③家庭教育の支援
3. 生涯学習を通じたまちづくりと人材の育成【ひろがる】	
(1) 市民主体の活動の育成と支援	①市民主体の学習・文化活動の支援 ②市民主体の活動につながる生涯学習の推進
(2) 人材の育成	①支援者の育成 ②地域活動の担い手の育成 ③グローバル人材の育成
(3) 和泉市のまちづくりや文化財継承の担い手の育成	①まちづくりや市民協働活動の担い手の育成 ②市民と連携した文化財・資料の管理・継承と積極的な活用
4. 読書活動の推進	
(1) 読書・学習支援体制の充実	①図書館サービスの充実 ②図書館ボランティアとの連携 ③切れ目のない読書活動支援
(2) 子どもの読書活動推進	①家庭・地域における読書活動の推進 ②就学前施設・小中学校等と連携した読書活動の推進 ③子ども・若者を対象とした読書活動の推進

4. 読書活動の推進

(1) 読書・学習支援体制の充実

現状と課題

- ・市民の学びを支えるため、市立図書館の地域の情報拠点としての機能充実を図り、子どもから高齢者まで多様な利用者の読書・学習活動を支え、ニーズに対応していく必要があります。
- ・感染症の影響に加え、今後少子高齢化と人口減少で図書館利用が減少していくことが見込まれる中、利用拡大のための取組や、誰もが快適に読書に親しめる環境整備の推進が課題となります。

※本計画中の「市立図書館」とは、和泉図書館、シティプラザ図書館、北部リージョンセンター図書室、南部リージョンセンター図書室及び人権文化センター図書室（にじのとしょかん）のことを言います。

施策の方向

①図書館サービスの充実

- ・蔵書の充実を図るとともに、電子図書館の拡充等、利用者の利便性向上に努めます。
- ・おはなし会等のイベントや講演会、資料展示といった市民ニーズに即した各種事業を実施し、図書館利用の拡大を図ります。
- ・各種媒体を活用してイベントや図書館情報の発信を行います。
- ・市民一人ひとりのニーズに応じて資料検索や読書相談に応じるレファレンスについて、対応の質の向上とサービスの周知を図ります。

②図書館ボランティアとの連携

- ・障がい者の図書館利用支援等、様々な読書活動サポートに取り組むボランティアグループと連携し、読書サービスの充実と図書館利用の促進を図ります。
- ・ボランティア講座を実施し、読書活動を推進する人材の育成に取り組みます。

③切れ目のない読書活動支援

- ・家庭・地域での読書活動の推進、保育・教育活動との連携や地域文庫の開設により、すべての世代の読書活動を切れ目なく支援します。

主な事業

講演会等イベント、点字図書・録音図書の充実、ウェブサイトやSNSでの情報発信

(2) 子どもの読書活動推進

現状と課題

- ・読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。子どもたちが「読書は楽しい」と感じ、自主的に読書活動を行える環境づくりが求められます。
- ・インターネットやスマートフォンの普及により、子どもの生活習慣や物事への関心が多様化し、「活字離れ」や「読書離れ」の傾向が顕著になってきていますが、情報が氾濫する中から正しい情報を見分ける術を身に付けるためには文章を読み解く力が必要となり、子どもの頃からの読書習慣の形成が必要です。



施策の方向

①家庭・地域における読書活動の推進

- ・赤ちゃんに無料で絵本を配付するブックスタート事業や、年齢に応じた絵本のブックリストの配布を通じ、家庭での読書の習慣づけを促進します。
- ・生涯学習どこでも講座（出前講座）等による読み聞かせの機会の提供を通じ、地域における読書活動を推進します。

②就学前施設・小中学校等と連携した読書活動の推進

- ・就学前施設における蔵書の充実や読み聞かせの充実、保護者への働きかけ等を通じて本にふれる機会を増やし、子どもの読書への興味・関心を高める取組を推進します。
- ・学校図書館の蔵書の充実や利用の利便性向上、児童・生徒の読書意欲を喚起する取組の充実等により、学校と連携しながら、子どもの読書活動の習慣化と不読者の減少をめざします。
- ・読書を行う上で支援を必要とする子どもの読書支援のため、市立図書館と市内就学前施設・小中学校、義務教育学校、支援学校、高等学校が連携した取組の充実を図ります。
- ・保育・教育活動との連携や、子どもの読書活動に関わるボランティア団体との連携により、読書活動推進の取組の充実を図ります。

③子ども・若者を対象とした読書活動の推進

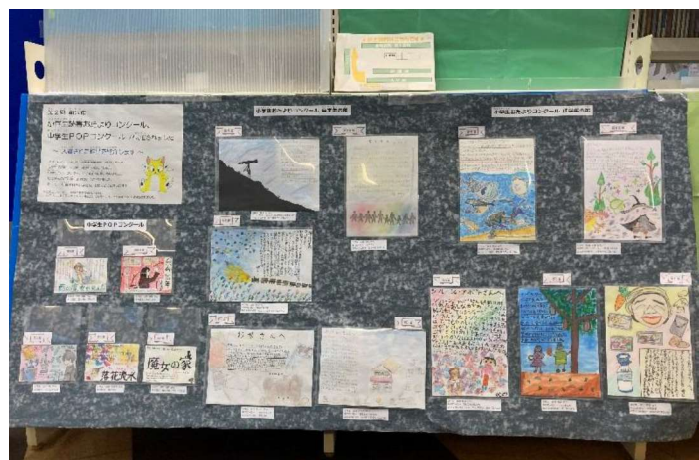
- ・図書館における子ども・若者向け蔵書の充実、通帳型読書記録帳（ぶっくんつうちょう）の発行、親子・若者を対象とした講演会等の開催により、「本を読みたい」と思えるような図書館づくりに取り組みます。
- ・子ども・若者の利用ニーズに即した取組やイベント、居心地の良い図書館環境づくり、高等学校等と連携した読書支援等を通じ、子どもの読書活動を推進します。
- ・読書関連のコンクール開催により、子どもの読書への関心を高めます。

主な事業

子どもや親子を対象とした作家の講座・ワークショップ・講演会、すくすくタイム、図書館を使った調べる学習コンクール・小学生読書おたよりコンクール・中学生 POP コンクール



図書館 絵本コーナー



図書館 コンクール結果の展示

1. 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、中心となる教育委員会（生涯学習推進本部）だけでなく、生涯学習・スポーツに関する施策・事業を行う関係各課との連携体制を構築し、相互に情報共有や調整を行いながら取り組むものとします。

また、生涯学習・スポーツの分野については、民間事業者や市民団体・NPO等による様々な事業が展開されており、こうした取組との連携・協働についても検討しながら、全体として市民が参加しやすい環境づくりにつながるよう取り組むものとします。

2. 計画の評価・検証

(1) 計画の進捗管理

本計画に基づく施策・事業の実施・進捗状況については、教育委員会及び本計画の進行管理を行う協議会等において報告し、計画の推進や取組の見直しについて意見を受けるものとします。

(2) 目標指標・進捗管理指標

本計画の進捗を評価するために、施策分野ごとに目標指標を設定し、本計画に基づく事業の実施状況を評価する中心的な指標として、計画終了年度の目標値の達成をめざして取り組むものとします。

また、施策分野ごとに目標指標のみでは把握できない取組の状況を確認するための指標として、複数の進捗管理指標を設定します。進捗管理指標については、目標値は設定しませんが、毎年度数値を確認することで、事業の評価に補助的に活用するものとします。

■生涯学習の推進

指標		現状値 (R3 年度)	目標値 (R13 年度)
1. すべての市民に開かれた学習環境の整備			
目標指標	生涯学習施設（和泉シティプラザ、コミュニティセンター、生涯学習サポート館、青少年の家）の利用者数	223,214 人	438,800 人
進捗管理 指標	いずみの国歴史館入館者数	2,983 人	目標：毎年度、 前年度を上回る
	久保惣記念美術館入館者数	11,024 人	
	青少年センター利用者数	1,322 人	
2. 多様なニーズに応じた学習機会の提供			
目標指標	生涯学習ポータルアプリ登録者数	未整備	18,000 人
進捗管理 指標	久保惣記念美術館公開講座参加者数	116 人	/
	生涯学習どこでも講座（出前講座）開催回数	23 回	
	識字・日本語教室の年度未受講者数	57 人	
3. 生涯学習を通じたまちづくりと人材の育成			
目標指標	地域活動・まちづくりにつながる講座の参加者数	643 人	670 人
進捗管理 指標	日本語ボランティア養成講座修了者数	12 人	/
	地域文化財総合活用推進事業補助件数	1 件	
4. 読書活動の推進			
目標指標	市民 1 人あたりの市立図書館貸出点数	6.43 点	7.0 点
進捗管理 指標	市立図書館の実利用者率	15.6%	目標：毎年度、 前年度を上回る
	市民 1 人あたりの市立図書館蔵書点数	3.35 点	
	子どもの市立図書館利用者率	25.4%	
	子どもの不読者率（小学校 6 年生）※	30.1%	目標：毎年度、 前年度を下回る

※は学力・学習状況調査